令和８年度第４回ＳＰＯＤネットワークコア運営協議会　議事概要

日　時：令和８年１０月３０日（金）９：３０～１１：２０
場　所：高知大学朝倉キャンパス及び各コア校（Ｚｏｏｍ）
出席者：別紙のとおり
議　題：

１．ＳＰＯＤフォーラム２０２６の総括について　【資料１、参考資料１－１～９】

事務局から資料１、参考資料１－１～４に基づき、ＳＰＯＤフォーラム２０２６の総括として、参加者数、満足度、事後アンケートから抽出した改善要望等について報告があった。

また、徳島大学吉田准教授から参考資料１－５に基づき、「新たな出会いと交流の部屋」について報告があった。続いて、事務局から参考資料１－６に基づき、ＳＰＯＤフォーラム２０２６の協賛企業について、参考資料１－７に基づき、事業評価委員からの意見・感想について報告があった。さらに、蝶ＦＤ専門部会長及び堀金ＳＤ専門部会長から、ＳＰＯＤフォーラム２０２６全体を通した所感が述べられた。

コア校からの所感では、広報面の工夫が必要であるとの意見が複数あった。

２．ＳＰＯＤフォーラム２０２７について　【資料２－１～２、参考資料２】

高知大学高畑准教授から資料に基づき、ＳＰＯＤフォーラム２０２７の全体テーマ、プログラムの時間割案、昨年度からの変更点について説明があった。コア校からの意見を踏まえ、プログラムの時間割及び枠数については、引き続き検討することとした。

また、開講するプログラムについて、各専門部会で７講座ずつ検討し、１１月１８日（水）までに高知大学学務課総務係に提出するよう依頼があった。その他のプログラムについては、高知大学、統括及び事務局で検討していくこととした。

３．令和１０（２０２８）年度以降のＳＰＯＤフォーラム持ち回りスケジュールについて　【資料３】

中井議長から資料に基づき、令和１０（２０２８）年度以降のＳＰＯＤフォーラム持ち回りスケジュールについて説明があった。昨年度に令和１３（２０３１）年度までの当番校を決定していることから、今回は変更・追加を行わないこととした。

４．令和８年度ＳＰＯＤ総会及びＦＤ／ＳＤ分科会の開催について　【資料４】

事務局から資料に基づき、令和８年度の総会及びＦＤ／ＳＤ分科会の開催予定について説明があり、了承された。１１月２６日に開催予定のＦＤ／ＳＤ分科会については、事前アンケートを実施し、講師派遣プログラムへの要望等を確認の上、その結果を共有する予定である旨の説明があった。

５．令和９年度ＳＰＯＤ内講師派遣事業について【資料５－１～２、参考資料３－１～４】

事務局から資料に基づき、令和９年度ＳＰＯＤ内講師派遣事業について説明があり、各コア校に対し、プログラム内容等について確認するよう依頼があった。原則として、今年度掲載しているプログラムを継続するとともに、各コア校で新規プログラムを１つ以上追加することを検討いただきたい旨の説明があった。また、１１月２６日（木）のＦＤ／ＳＤ分科会に係る事前アンケートの結果を参考に、新たなプログラムを検討し、別

途講師への依頼を行う可能性がある旨の説明があった。

中井議長から、今年度の講師派遣では生成ＡＩに関するプログラムに人気が集まり、特定の講師に負担が偏ったことから、次年度に向けて、各コア校内の他の教職員も含め、対応可能な講師を検討いただきたい旨の依頼があった。併せて、生成ＡＩに関するプログラムについては、ＦＤとＳＤに分けて実施する案も示された。

６．令和７年度ＳＰＯＤ事業評価委員会委員の評価への対応及び令和８年度事業評価シートについて
【資料６－１～２】

事務局から資料６－１に基づき、令和７年度ＳＰＯＤ事業評価委員会委員の評価への対応状況について説明があった。今後、事務局、各専門部会等で最終確認の上、１２月のコア運営協議会で報告することとなった。また、資料６－２に基づき、令和８年度の事業評価を３月に事業評価委員へ依頼することについて併せて説明があった。

７．ＳＰＯＤ中期計画の枠組みについて 【資料７、参考資料４】

事務局から資料７に基づき、令和１０年度からのＳＰＯＤ中期計画の枠組みについて説明があった。今後、事務局で素案を作成し、引き続き検討していくこととした。

８．ＦＤ・ＳＤコンテンツの今後の運営方法について 【資料８、参考資料５】

徳島大学飯尾助教から資料８及び参考資料５に基づき、ＦＤ・ＳＤコンテンツの今後の運営方法について説明があった。今後の運営方法については、引き続き検討していくこととした。

９．ＳＰＯＤ階層別研修「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」の見直し状況について
【資料９－１～４】

事務局から資料９－１～４に基づき、大学職員向けの階層別研修「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」の見直し状況について説明があった。１２月のコア運営協議会で令和９年度の実施日程等を報告する予定である旨の説明があった。また、ＳＰＯＤホームページで「ＳＰＯＤ－ＳＤ能力育成ルーブリック」を公開する予定である旨の説明があった。

１０．今後の予定・提出物等について 【資料１０】

事務局から資料１０に基づき、今後の事業予定と提出物について説明があった。

１１．その他

・「大学教育カンファレンスin徳島」について

徳島大学吉田准教授から、「大学教育カンファレンスin徳島」の研究発表の申込状況及び開催日程等について報告があった。

令和8年度　第4回SPODネットワークコア運営協議会出席者名簿

大学名	所　属	氏　名	担当	FD専門部会委員	SD専門部会委員
徳島大学	高等教育研究センター教育基盤開発部門　准教授	吉田　博	FD	○	
	高等教育研究センター教育基盤開発部門　助教	飯尾　健	FD	○	
	高等教育研究センター教育基盤開発部門　助教	田巻　公貴	FD	○	
	高等教育研究センターアドミッション・EM部門　助教	塩川　奈々美	FD	○	
	法人運営部　人事課長	林　三知夫	SD		○
	法人運営部人事課　副課長	真田　浩志	SD		○
	学務部教育支援課　課長	真名野　佳代	事務		
	学務部教育支援課　副課長	川上　ちぐさ	事務		
	学務部教育支援課　教育企画係長	安友　有希	事務		
	学務部教育支援課　教育企画係　係員	香川　みずき	事務		
香川大学	大学教育基盤センター能力開発部長　教授	渡邉　彰	FD	○	
	大学教育基盤センター能力開発部　准教授	蝶　慎一	FD	◎	
	大学教育基盤センター能力開発部　特命講師	藤澤　修平	FD		
	企画総務部給与福利課長	宮﨑　慎也	SD		○
	企画総務部給与福利課　課員	白石　喬子	SD		○
	企画総務部給与福利課　課員	梶川　瑶央	SD		○
	教育・学生支援部教育企画課　係長	島　明日香	事務		
高知大学	学び創造センター　准教授	高畑　貴志	FD	○	
	学び創造センター　准教授	杉田　郁代	FD	○	
	学び創造センター（兼務）　准教授	俣野　秀典	FD	○	
	学び創造センター　特任講師	寺田　悠希	FD	○	
	総務部　人事課長	有友　幸代	SD		○
	総務部人事課労務管理係　係長	石田　菜美	SD		○
	総務部人事課労務管理係　主任	橋田　由貴	SD		
	学務部学務課　課長補佐	久保　雅裕	事務		
	学務課総務係　係員	梶浦　花	事務		
愛媛大学	教育・学生支援機構　教授	中井　俊樹	議長・FD	○	
	教育・学生支援機構　准教授	清水　栄子	SD		○
	教育・学生支援機構　准教授	上月　翔太	FD	○	
	教育・学生支援機構　講師	村田　晋也	FD	○	
	教育・学生支援機構　助教	深谷　麻未	SD		○
	教育・学生支援機構　特任助教	濵本　潤毅	FD	○	
	地域協働支援部　部長	久保　秀二	SD		○
	総務部人事課　課長	堀金　守	SD		◎
	教育学生支援部　部長	桐野　律子	事務		
	教育学生支援部　教育企画課　課長	石川　尚	事務		
	教育学生支援部教育企画課教育総務チーム　チームリーダー	西村　優作	SD・事務		○
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム　チームリーダー	河内　貴博	FD・事務	○	
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム　チームリーダー	岡﨑　浩佳	事務		
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム　サブリーダー	小川　達也	事務		

※◎は専門部会長

ネットワークコア運営協議会の構成員に関する申合せ(抄)
(組織)第2　協議会は、次の(1)～(4)に掲げる構成員をもって組織する。
(1)　議長
(2)　各コア校のFD担当者
(3)　各コア校のSD担当者
(4)　各コア校の事務担当者

ＳＰＯＤフォーラム２０２６の総括について

１．参加者数等について

（参考数値の 2025、2023 は対面開催、2022 はオンライン開催（2024 は台風で中止）

・実数　508人
［参考］2025：477人、2023：450人

・延べ人数　1,618人
［参考］2025：1,567人、2023：1,340人

・１人あたり受講コマ数：ＳＰＯＤ内 2.12、ＳＰＯＤ外 5.15
［参考］2025：ＳＰＯＤ内2.40、ＳＰＯＤ外 4.85、2023：ＳＰＯＤ内2.03、ＳＰＯＤ外 5.07

・研修料収入は165万円（12,000円×教職員等132名、6,000円×学生11名）
（当初の見込み：168万円（12,000円×140名））
［参考］2025：155名／155万円、2023：128名／128万円、2022：158名／158万円

・プログラム別アンケートの満足度平均 3.70
［参考］2025：3.61、2023：3.52、2022：3.62

・今回が初めての参加者：41.0%
［参考］2025：52.1%、2023：38.0%、2022：40.1%

・フォーラム4週間後に全体アンケートをＷＥＢで実施
回答率：40.2%　［参考］2025：45.5%、2023：48.0%、2022：41.3%
満足度：99.0%　［参考］2025：98.2%、2023：99.5%、2022：98.7%

２．今年度開催の良かった点について（抜粋）

■プログラム・学び

・実務に役立つ内容のプログラムが多く、また参加者や講師の方と人脈を広げることができました。
・日常の生成ＡＩ活用において感じていた自大学の運用活用方針に対し、新たな視点と解決のヒントを得ることができました。ワークショップでのグループワークを通じ、自校の取り組みを客観的に見つめ直すとともに、今後実践すべき具体的なアクションを明確にすることができました。

■交流・ネットワーク形成

・他大学の、また分野の異なる教職員の方とたくさんお話ができるため、新たな発見があったり、つながりができたりする部分がとても良いです。

■業務・教育現場での活用

・受講した研修の資料を活用し、学内・所属部署で共有し、業務改善に活用させていただいています。

■運営

・事務局の方々は手際よく運営をされていて、素晴らしいと感じた。

３．参加者からの要望等について(抜粋)

■時間割・プログラム配置

・「プログラムが詰め込んであったので、空き時間に交流の部屋に行ったり、参加者の方とゆっくりお話しできたりする時間が少なかった。」
・「ポスター発表の時間をもう少し延長していただきたいです。特に発表者は他の発表を聞きに行く時間を確保することも難しく、投票先を適切に検討する時間がほとんどなかったように思います。」

■開催方法

・「他県で行われる SPOD は参加したい講座があってもなかなか参加が難しいため、講義型の講座についてはオンライン参加ができるようにしていただけると、参加しやすくなるかと思います。」

■プログラムの内容・構成

・「昔のように、教育に関する教員向けの研修を増やす」
・「応募段階で講義形式とされていたのに、当日にワークショップに変更されたものが複数あった。どれに応募するか形式も含めて検討しているので、当日に形式を変更するのは止めて欲しい。」

■交流・会場運営

・「キャンパス内や教室のアクセスがわかりにくかった。」

・「研修時間内に研修アンケートへ回答する時間を設けてほしい。記憶が鮮明なうちに回答したい。」

■資料・情報提供

・「県外参加者としては、資料の配布はもう少し早いと有難いです」

・「講師の方が教員なのか職員なのかプログラム上にあると、どちら目線での講義なのかわかるため、講義選択の際に参考になるかと思いました。」

■その他

・「参加した人の満足度は高いので、広報活動の工夫がほしい。」

４．開催して欲しい研修プログラムについて（キーワードなどを抜粋）

■生成ＡＩ・ＤＸ・データ活用：

・「大学職員業務における生成ＡＩの取扱い方」

・「ＡＩを利用した事務効率化の研修」

■学生支援・学生対応：

・「合理的配慮について（事例）」

・「留年や退学を防止するための取り組みについて知りたい。」

・「学生相談が多く、精神的な相談について対応方法をもっと学びたい。」

■大学運営・教務・法令：

・「教職課程の再課程認定申請に関すること」

・「第４期認証評価、新たな評価制度に関する内容」

・「学則等、規則の理解とイレギュラー対応」

■人材育成・組織マネジメント：

・「部下の育成に関する研修プログラム」

・「管理職のメンタルヘルスに関する研修」

・「若手職員の勉強会的なもの。公文書の書き方など、事務の基本的なスキルについてはＡＩが活用できるとしても理解しておくべき。」

■業務基礎・管理部門：

・「大学における総務・人事・労務についての内容があったらありがたいです。」

・「財務系の研修や、業務継続性（防災時、有事）に関するプログラムなど」

・「助成金・科研費などの研究に関する支援等を基礎から学びたい。」

■教育・研究方法

・「生成ＡＩを積極的に学生の評価に使っている場合その方法と問題点を検討するような内容があるといいかと思いました。」

・「ＡＩを使用した講義の実践方法」

■国際化・地域連携等

・「・留学生支援における実践事例共有

・海外大学との連携協定（MOU/MOA）やリスクマネジメント」

・「地域連携、地域共創、人口減少化対策」

■講演・事例共有

・「今回、岡田監督の講演を受講したが、今後も色々な著名人の講演が聞ける機会があると嬉しい。」

・「他大学のもう少し運用に踏み込んだ取り組みや内容の紹介（システムや実運用の内容や部分）」

ＳＰＯＤフォーラム２０２６　参加者数

【参加者数】

区分	教員	職員	学生	その他	計
ＳＰＯＤ加盟校	83	233	10	3	329
ＳＰＯＤ加盟校外	49	102	14	14	179
合計	132	335	24	17	508

【開催日別参加者延べ人数】

日程・区分	教員	職員	学生	その他	計
８月２６日(水)	174	340	24	18	556
８月２７日(木)	213	423	41	28	705
８月２８日(金)	98	229	22	8	357
合計	485	992	87	54	1618

【参考】ＳＰＯＤフォーラムの参加者数経年変化

開催年	開催大学	開催日程	日数	参加人数　（実数）					内訳												延べ人数
									ＳＰＯＤ加盟校							加盟校外					
				合計	教員	職員	学生・大学院生	その他	小計	教員	職員	学生・大学院生	その他	うち開催大学	うち開催県加盟校（開催大学以外）	小計	教員	職員	学生・大学院生	その他	
2026	愛媛大学	R8.8.26～R8.8.28	3	508	132	335	24	17	329	83	233	10	3	145	92	179	49	102	14	14	1618
2025	徳島大学	R7.8.27～R7.8.29	3	477	156	315	0	6	305	102	198	0	5	117	50	172	54	117	0	1	1567
2023	愛媛大学	R5.8.23～R5.8.25	3	450	117	332	0	1	310	83	226	0	1	79	115	140	34	106	0	0	1340
2022	愛媛大学 オンライン	R4.8.24～R4.8.26	3	581	207	371	0	3	411	163	245	0	3	57	111	170	44	126	0	0	1492
2021	高知大学 オンライン	R3.8.25～R3.8.27	3	572	276	295	1	0	372	209	162	1	0	40	99	200	67	133	0	0	1753
2019	愛媛大学	R1.8.28～R1.8.30	3	535	215	320	0	0	314	126	188	0	0	69	117	221	89	132	0	0	1734
2018	香川大学	H30.8.29～H30.8.31	3	463	196	265	2	0	275	115	160	0	0	73	18	188	81	105	2	0	1590
2017	徳島大学	H29.8.23～H29.8.25	3	405	169	230	4	2	225	91	131	3	0	69	49	180	78	99	1	2	1428
2016	愛媛大学	H28.8.24～H28.8.26	3	503	191	305	3	4	305	108	194	3	0	87	88	198	83	111	0	4	1469
2015	愛媛大学	H27.8.26～H27.8.28	3	488	197	285	0	6	286	112	172	0	2	74	69	202	85	113	0	4	1507
2014	高知大学	H26.8.27～H26.8.29	3	437	191	239	0	7	259	112	146	0	1	106	57	178	79	93	0	6	1295
2013	愛媛大学	H25.8.20～H25.8.23	4	560	209	312	35	4	369	130	204	35	0	112	128	191	79	108	0	4	1538
2012	徳島大学	H24.8.22～H24.8.24	3	496	168	271	53	4	373	129	191	53	0	103	46	123	39	80	0	4	1432

※2024は台風のため中止

ＳＰＯＤフォーラム２０２６の参加状況について（プログラム別）

日時	番号	プログラム名	講師	定員	受講者	内訳 教員	職員	学生	その他	充足率（受講者／定員）	受講人数 加盟校	加盟校外
8月26日（水）1時限	2601B	中堅層職員から始める組織変革の試み	藤原　哲 山本　博 前河　泰正 佐藤　浩輔	40	20	4	16	0	0	50 %	5	15
	2601C	職員対象自主勉強会をどう始め、運営するか	大竹　秀和 山田　尚彦 松村　多嘉士 嶺本　朋希 山中　耕 汰木　里奈	40	17	0	17	0	0	43 %	3	14
	2601D	業務マニュアルの作り方	松丸　英治	24	24	4	19	0	1	100 %	17	7
	2601E	ＪＣで担当業務を自分らしく工夫する	藤本　正己 坂本　規孝	32	21	2	19	0	0	66 %	13	8
	2601F	ピア・サポートの現在から共に未来を考える	石井　義人 関口　貴仁 三浦　翔 熊谷　美衣菜 小林　怜奈	40	26	13	9	2	2	65 %	7	19
8月26日（水）2時限	2602A	大学教育における生成AI活用	中井　俊樹	150	143	59	66	12	6	95 %	73	70
	2602B	質向上時代の大学評価を再考しよう	荒木　俊博	40	32	6	25	1	0	80 %	2	30
	2602C	学術研究を持続的に推進するための研究経営	矢吹　命大 山田　朗	40	16	7	9	0	0	40 %	12	4
	2602D	教職員のための基礎から学ぶD&I	和田　千寛	40	10	1	9	0	0	25 %	5	5
	2602E	ゲートキーパー養成講座　学生の自殺予防支援研修	糸林　剛志	40	26	3	20	2	1	65 %	16	10
	2602F	ＫａｄａｉＤＸ塾ハンズオン初級編	川瀬　舞 木村　悠佑 岩河　朱音 武田　啓之 渡部　昌尚	30	26	8	17	0	1	87 %	13	13
8月26日（木）3時限	2603A	地理的アクセスの視点で考える高等教育機会	寺田　悠希	150	68	27	33	4	4	45 %	26	42
	2603B	学務系職員のための学生理解・支援	野口　悟	32	30	2	28	0	0	94 %	13	17
	2603C	学術研究の持続的な推進と研究の安全保障	渡辺　修 山田　朗	40	14	5	8	0	1	35 %	6	8
	2603D	若手職員のための業務改善	久保　直毅	40	27	0	27	0	0	68 %	13	14
	2603E	小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン	俣野　秀典	40	22	16	3	3	0	55 %	4	18
	2603F	テキストマイニング入門	塩川　奈々美	40	34	17	15	0	2	85 %	11	23
8月27日（木）1時限	2701A	トップリーダーセミナー｜地域とともに未来を担う人材を育てる	岡田　武史	300	188	40	127	14	7	63 %	116	72
	2701B	留学生支援のための在籍管理	岩田　剛	40	18	1	16	0	1	45 %	7	11
	2701C	大学院教育の質保証とは－制度の理解と運用	大津　正知	40	33	10	23	0	0	83 %	14	19
	2701D	FD担当者のためのFD企画講座	高畑　貴志 吉田　博 杉田　郁代 蝶　慎一	20	17	9	8	0	0	85 %	2	15
	2701E	ニューロダイバーシティから合理的配慮を考える	坂井　聡	40	15	1	14	0	0	38 %	5	10
	2701F	電子テキスト型コンテンツの制作と授業運用	林　敏浩	40	18	16	1	0	1	45 %	8	10
8月27日（木）2時限	2702A	トップリーダーセミナー｜自律的な質保証への転換	原　和世	150	80	18	49	8	5	53 %	26	54
	2702B	学生の意欲を高めるアカデミック・アドバイジングの手法	小林　忠資	36	32	10	17	5	0	89 %	10	22
	2702C	理念から設計！－初任者研修の作り方－	葛西　崇文 小川　逢也	20	14	1	13	0	0	70 %	6	8
	2702D	カリキュラムを通した学習成果の評価を考える	竹中　喜一	40	24	10	14	0	0	60 %	3	21
	2702E	自己調整を促す！教職協働による留年防止研修	土屋　麻衣子 杉田　郁代	40	29	9	19	0	1	73 %	11	18
	2702F	生成AI×IDで考える授業改善	金西　計英 田巻　公貴	40	24	19	5	0	0	60 %	10	14
8月27日（木）3時限	2703G	シンポジウム｜「デジタル技術が変える高等教育の未来」	若山　正人 上畠　洋佑 鈴木　洋 中井　俊樹 上月　翔太	300	213	69	117	14	13	71 %	83	130
8月28日（金）1時限	2801A	基礎から学ぶ契約書作成実務	小野　勝士	150	31	1	30	0	0	21 %	20	11
	2801B	AIとピア・サポートで実現する未来志向のアカデミック・アドバイジング	上畠　洋佑	40	35	15	11	8	1	88 %	17	18
	2801C	レジリエンス視点で学ぶ大学職員の組織運営入門	宮林　常崇	40	38	1	37	0	0	95 %	14	24
	2801D	発問と応答でつくる学びの循環	高橋　平徳	40	23	15	8	0	0	58 %	10	13
	2801E	教職員としての障害者対応について考える	山根　創	40	32	9	23	0	0	80 %	17	15
	2801F	デジタル学修歴証明書入門	鈴木　洋	40	21	7	13	0	1	53 %	7	14
8月28日（金）2時限	2802A	これからのアカデミック・アドバイジング	清水　栄子	150	71	24	28	14	5	47 %	17	54
	2802B	４０代からのキャリアデザイン－リスキリングで未来を拓く－	久保　秀二 石川　尚	40	11	1	10	0	0	28 %	8	3
	2802C	Excelではじめる統計分析	飯尾　健	40	17	7	9	0	1	43 %	7	10
	2802D	学生の書く力と読む力を高めるために	上月　翔太	40	25	12	13	0	0	63 %	12	13
	2802E	障害のある学生の成長につなげる支援のあり方	大沼　泰枝	40	27	4	23	0	0	68 %	17	10
	2802F	ケースで学ぶ大学の危機対応	阿部　光伸	40	26	2	24	0	0	65 %	10	16
合計				2664	1618	485	992	87	54	61 %	696	922
						1618						

ＳＰＯＤフォーラム２０２６の申込み状況について（学校別：加盟校）

	学校名	教員	職員	学生	その他	計
1	徳島大学	9	4	0	0	13
2	鳴門教育大学	0	0	0	0	0
3	香川大学	5	6	0	0	11
4	愛媛大学	22	111	10	2	145
5	高知大学	12	9	0	0	21
6	香川県立保健医療大学	0	0	0	0	0
7	愛媛県立医療技術大学	0	1	0	0	1
8	高知県立大学	0	4	0	0	4
9	高知工科大学	0	2	0	0	2
10	四国大学・四国大学短期大学部	0	0	0	0	0
11	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	8	14	0	0	22
12	高松大学・高松短期大学	0	1	0	0	1
13	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	6	30	0	0	36
14	松山大学・松山短期大学	2	3	0	0	5
15	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学	2	19	0	0	21
16	高知学園大学・高知学園短期大学	0	1	0	0	1
17	高知リハビリテーション専門職大学	0	0	0	0	0
18	徳島工業短期大学	10	3	0	1	14
19	香川短期大学	0	1	0	0	1
20	今治明徳短期大学	2	4	0	0	6
21	せとうち観光専門職短期大学	1	1	0	0	2
22	岡山理科大学獣医学部	1	0	0	0	1
23	人間環境大学松山看護学部、総合心理学部および総合環境学部	1	19	0	0	20
24	高知健康科学大学	0	0	0	0	0
25	阿南工業高等専門学校	0	0	0	0	0
26	香川高等専門学校	0	0	0	0	0
27	新居浜工業高等専門学校	2	0	0	0	2
28	弓削商船高等専門学校	0	0	0	0	0
29	高知工業高等専門学校	0	0	0	0	0
	合計	83	233	10	3	329

加盟校	83	233	10	3	329
加盟校外	49	102	14	14	179
合計	132	335	24	17	508

ＳＰＯＤフォーラム２０２６の申込み状況について（学校別：加盟校外）

学校名	教員	職員	学生	その他	計
帯広畜産大学	1	0	0	0	1
北海道大学	2	0	0	0	2
北海学園大学	1	0	0	0	1
青森県立保健大学	1	0	0	0	1
青森公立大学	0	1	0	0	1
日本赤十字東北看護大学	1	0	0	0	1
茨城大学	1	3	0	0	4
関東学園大学	1	0	0	0	1
学校法人城西大学	0	1	0	0	1
城西大学	0	1	0	0	1
千葉大学	1	0	0	0	1
秀明大学	1	0	0	0	1
城西国際大学	0	2	0	0	2
電気通信大学	0	1	0	0	1
東京都公立大学法人	0	1	0	0	1
東京都立大学	0	1	0	0	1
亜細亜大学	0	1	0	0	1
学校法人立教学院（立教大学）	0	1	0	0	1
学習院大学	0	1	0	0	1
鎌倉女子大学	0	1	0	0	1
共立女子大学	0	1	0	0	1
芝浦工業大学	0	11	0	0	11
昭和女子大学	0	1	0	0	1
松山看護専門学校	1	0	0	0	1
早稲田大学	0	3	0	1	4
大阪医科薬科大学	0	1	0	0	1
東京理科大学	0	1	0	0	1
日本大学	5	3	0	0	8
白百合女子大学	2	0	0	0	2
株式会社ArK Glade	0	0	0	1	1
株式会社マイナビ	0	0	0	1	1
早稲田大学アカデミックソリューション	0	0	0	1	1
台湾評鑑協会	0	0	0	1	1
株式会社みらい翻訳	0	0	0	2	2
横浜国立大学	3	0	0	0	3
新潟大学	5	1	14	0	20
岐阜医療科学大学	0	1	0	0	1
東都大学	1	0	0	0	1
豊橋技術科学大学	0	1	0	0	1
名古屋大学	0	0	0	1	1
愛知学院大学	1	0	0	0	1
愛知学泉大学	1	0	0	0	1
名古屋外国語大学	0	1	0	0	1
名古屋経済大学	0	1	0	0	1
名古屋芸術大学	0	1	0	0	1
滋賀大学	0	1	0	0	1

ＳＰＯＤフォーラム２０２６の申込み状況について（学校別：加盟校外）

学校名	教員	職員	学生	その他	計
京都橘大学	0	2	0	0	2
京都文教大学	0	1	0	0	1
同志社大学	1	3	0	0	4
龍谷大学	1	9	0	0	10
公益財団法人大学コンソーシアム京都	0	3	0	0	3
公益財団法人日本漢字能力検定協会	0	0	0	1	1
大阪公立大学	1	2	0	0	3
関西福祉科学大学	0	1	0	0	1
近畿大学	1	0	0	0	1
摂南大学	0	1	0	0	1
大阪音楽大学	1	0	0	0	1
大阪経済大学	0	1	0	0	1
大阪国際大学	0	4	0	0	4
大阪成蹊大学	1	0	0	0	1
大阪体育大学	0	4	0	0	4
大和大学	1	0	0	0	1
帝塚山学院大学	0	2	0	0	2
宝塚大学	0	3	0	0	3
日本システム技術株式会社	0	0	0	5	5
鳥取大学	1	0	0	0	1
公立鳥取環境大学	0	2	0	0	2
鳥取短期大学	1	0	0	0	1
くらしき作陽大学	0	1	0	0	1
岡山理科大学	2	1	0	0	3
川崎医科大学	1	0	0	0	1
川崎医療福祉大学	0	2	0	0	2
ノートルダム清心学園	0	1	0	0	1
県立広島大学	2	0	0	0	2
広島市立大学	0	2	0	0	2
広島工業大学	0	3	0	0	3
広島国際大学	0	3	0	0	3
広島修道大学	0	2	0	0	2
札幌大学	1	1	0	0	2
山口大学	1	0	0	0	1
神山まるごと高等専門学校	0	1	0	0	1
学校法人河原学園	0	2	0	0	2
福岡工業大学	1	1	0	0	2
福岡歯科大学	1	0	0	0	1
熊本県立大学	2	0	0	0	2
立命館大学	0	1	0	0	1
合計	49	102	14	14	179

SPODフォーラム2026事前アンケート集計結果

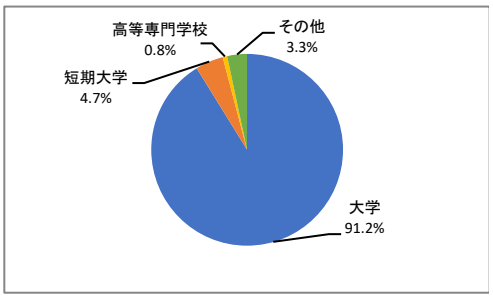
アンケート回答者数：510名

参加者の属性

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	465	91.2%
② 短期大学	24	4.7%
③ 高等専門学校	4	0.8%
④ その他	17	3.3%
計	510	100.0%

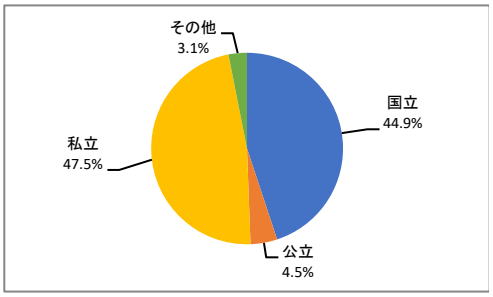
その他：学校法人本部(2)，公益財団法人(2)



(2) 所属先の設置者

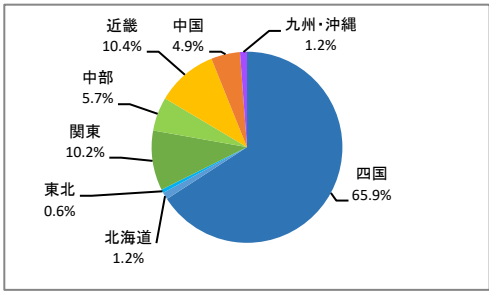
	度数	割合
① 国立	229	44.9%
② 公立	23	4.5%
③ 私立	242	47.5%
④ その他	16	3.1%
計	510	100.0%

その他：公益財団法人(2)



(3) 所属先の所在地

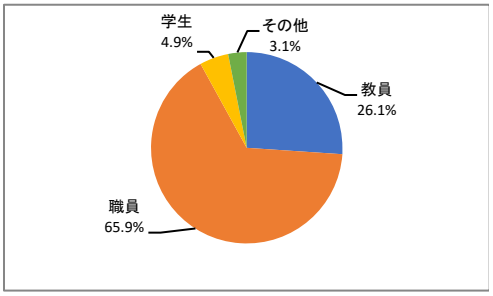
	度数	割合
① 四国	336	65.9%
② 北海道	6	1.2%
③ 東北	3	0.6%
④ 関東	52	10.2%
⑤ 中部	29	5.7%
⑥ 近畿	53	10.4%
⑦ 中国	25	4.9%
⑧ 九州・沖縄	6	1.2%
計	510	100.0%



(4) 職種

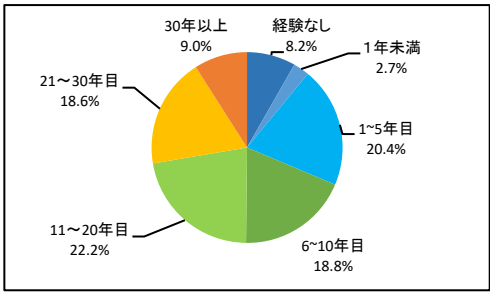
	度数	割合
① 教員	133	26.1%
② 職員	336	65.9%
③ 学生	25	4.9%
④ その他	16	3.1%
計	510	100.0%

（その他：教員職員の兼業）



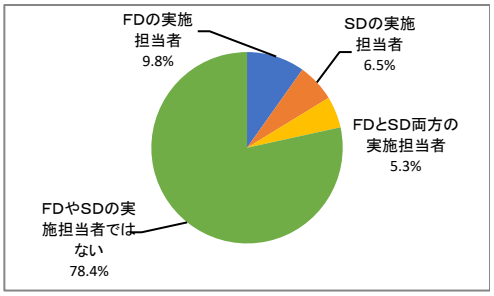
(5) 大学教職員等の経験年数

	度数	割合
① 経験なし	42	8.2%
② 1年未満	14	2.7%
③ 1～5年目	104	20.4%
④ 6～10年目	96	18.8%
⑤ 11～20年目	113	22.2%
⑥ 21～30年目	95	18.6%
⑦ 31年以上	46	9.0%
計	510	89.0%



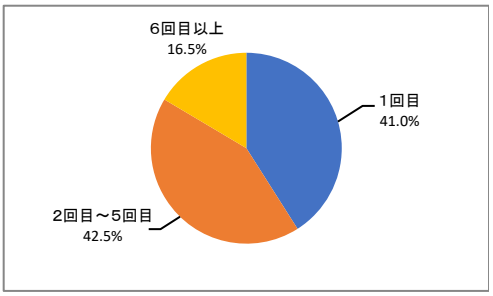
1. あなたはFDまたはSDの実施担当者ですか？

	度数	割合
① FDの実施担当者	50	9.8%
② SDの実施担当者	33	6.5%
③ FDとSD両方の実施担当者	27	5.3%
④ FDやSDの実施担当者ではない	400	78.4%
計	510	100.0%



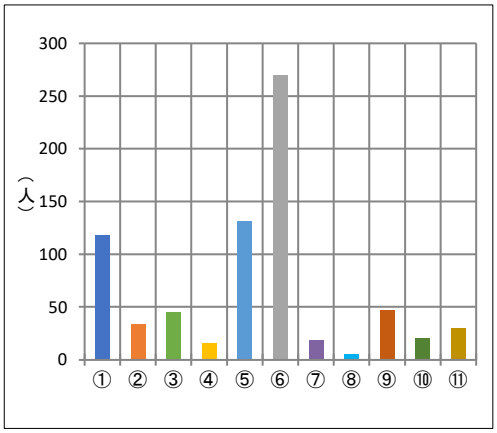
2. SPODフォーラムの参加は何回目ですか？

	度数	割合
① 1回目	209	41.0%
② 2回目～5回目	217	42.5%
③ 6回目以上	84	16.5%
計	510	100.0%



3. SPODフォーラムをどこで知りましたか？（複数選択可）

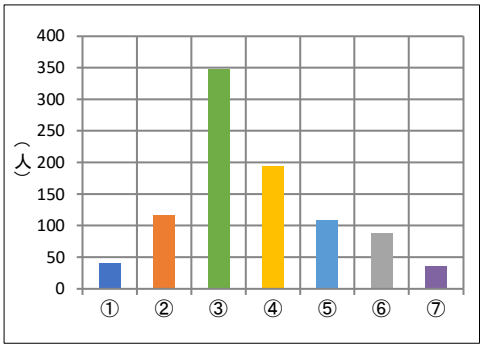
	度数	割合
① SPODホームページ	118	23.1%
② SPODメールマガジン	34	6.7%
③ SPODフォーラムチラシ	45	8.8%
④ SPOD研修プログラムガイド	16	3.1%
⑤ SPOD関係者からの案内	131	25.7%
⑥ 職場の同僚・上司からの案内	270	52.9%
⑦ 知人からの案内	18	3.5%
⑧ 愛媛大学FD・SDチャンネルのX（旧Twitter）	5	1.0%
⑨ ぼっちゃんメーリングリスト	47	9.2%
⑩ メーリングリスト（tulip）	20	3.9%
⑪ その他	30	5.9%
アンケート回答者数	510	



その他の記述回答
- 大学からの案内 7
- 職場からの案内 7
- 関係者からの案内 7
- 未回答 9

4. SPODフォーラムに参加した動機は何ですか？（複数選択可）

	度数	割合
① 過去の参加者に参加をすすめられたため	40	7.8%
② 上司に参加をすすめられたため	116	22.7%
③ 自分自身の能力開発のため	348	68.2%
④ 組織の課題を解決するヒントを得るため	194	38.0%
⑤ 組織を越えた人脈づくりのため	108	21.2%
⑥ FDやSDに関する情報収集のため	88	17.3%
⑦ その他	36	7.1%
アンケート回答者数	510	



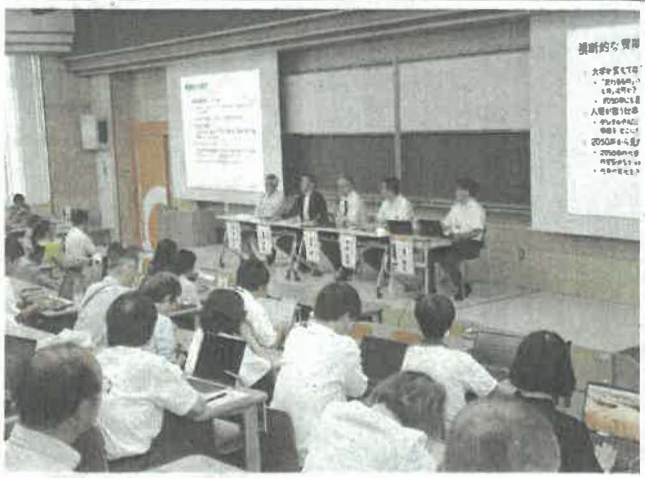
その他の記述回答
- 協賛のご依頼 5
- 仕事の業務改善・やりがいの向上 5
- 講師（ポスター発表）を引き受けたため 5
- 受講したい講師がいるため 4
- 愛媛大学からの紹介 1
- 来年度フォーラム当番校のため運営補助 1
- 愛媛大学での開催のため 1
- 優れた企画ばかりで学びが多いから 1
- 未回答・誤記入 13

デジタル技術が変える高等教育
愛媛大学でSPODフォーラム

愛媛大学が代表校を務める四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）は、8月26日から28日までの3日間、「デジタル技術が変える高等教育の未来」をテーマに、「SPODフォーラム2026」を愛媛大学城北キャンパスで開催した。全国から508人が参加した。

今回のフォーラムでは、40以上の研修プログラム、シンポジウム、ポスターセッションなどを実施した。今年度からは参加対象を大学教職員だけでなく、学生や民間企業等に所属する方々にも拡大し、より幅広い立場の参加者が学び合う機会となった。

研修プログラムでは、生成AI、DX、デジタル学修歴証明書などのデジタル技術に加え、大学教育の質保証、アカデミック・アドバイジング、学生支援、組織変革、業務改善、研究マネジメントなど幅広いテーマを取り上げた。グループワークやペアワークを取り入れた実践型のプログラムも多く、所属機関や職種を越えた活発な意見交換が行われた。



全国から500人以上が参加

トップリーダーセミナーでは、FC今治高校里山校の岡田武史学園長が「地域とともに未来を担う人材を育てる」と題して登壇し、学校運営やサッカークラブの運営を踏まえ、変化の激しい社会で未来を切り拓く人材育成について話題提供を行った。

また、台湾評鑑協会リサーチフェローの原和世氏による「自律的な質保証への転換」では、第4期認証評価や高等教育政策、国際的な質保証の動向を踏まえ、評価対応を目的化するのではなく、教職員が主体となって内部質保証を機能させるための課題と方策が示された。

シンポジウムでは「デジタル技術が変える高等教育の未来」をテーマに、ZEN大学の若山正人学長、新潟大学の上畠洋佑准教授、芝浦工業大学の鈴木洋情報イノベーション部長が講演した。デジタル技術がキャンパス、教育実践、教職員の働き方をどのように変えるのか、さらに25年後の高等教育の姿について議論した。

ポスターセッションには全国から24件の実践・研究事例が集まり、スチューデントサクセス、学生参画、生成AI、アカデミック・アドバイジング、教学マネジメントなど、多様なテーマについて活発な対話が行われた。

所属や職種を越えて自由に交流できる「新たな出会いと交流の部屋」を設け、情報交換やネットワーク形成を促した。2日目には松山大学カルフールカフェテリアで情報交換会を開催し、参加者同士が交流を深めた。

SPOD企画・実施統括者の愛媛大学の中井俊樹教授は、「デジタル技術を単に活用するだけでなく、それを契機に教育、学生支援、大学運営、大学教職員の役割をどのように捉え直すのかについて、参加者がともに考える3日間となった」と振り返った。

次回の「SPODフォーラム2027」は、令和9年8月25日から27日、高知大学にて開催される予定である。

－８－　令和８年　９月２８日（月曜日）　文　教　速　報　（第三種郵便物認可）　第９７２８号

四国地区大学教職員能力開発ネット
愛媛大でＳＰＯＤフォーラムを開催

愛媛大学及び四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（ＳＰＯＤ）では、８月28日までの３日間、愛媛大学城キャンパスを会場として「ＳＰＯＤフォーラム２０２６」を開催し、全国１２０の機関から５０８人が参加した。

ＳＰＯＤフォーラムは、大学等の教職員が自らの能力開発のために役立つ、多種多様で質の高いＦＤ／ＳＤプログラムと組織を越えた持続的な相互交流・関係づくりの場を提供する目的で実施している。

期間中は40を超える研修プログラム、シンポジウム及びポスターセッションを実施した。今年度からは参加対象を大学教職員だけでなく、学生や民間企業等に所属する研究者らにも拡大。多様な立場の参加者がともに学び、交流する機会となった。



今回のフォーラムでは、『デジタル技術が変える高等教育の未来』を全体テーマに掲げた。シンポジウム＝写真＝では、ＺＥＮ大学の若山正人学長、新潟大学の上畠洋佑准教授、芝浦工業大学の鈴木洋情報イノベーション部長が登壇し、デジタル技術が教育や大学運

営に与える影響や、25年後の高等教育の姿について議論した。

また、トップリーダーセミナーでは、ＦＣ今治高校里山校の岡田武史学園長が『地域とともに未来を担う人材を育てる』と題して講演。さらに、生成ＡＩやＤＸ、デジタル学修歴証明書、大学教育の質保証、アカデミック・アドバイジング、学生支援、組織変革、業務改善、研究マネジメントなど多様なテーマのプログラムを通じて、参加者同士の活発な情報交換や意見交換が行われた。

令和8年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

総会及びFD／SD分科会 実施概要（案）

1．総会

日　　時：令和9年3月中旬～下旬

実施方法：書面開催

出 席 者：各加盟校の代表者等

審議事項：

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約第9条6項に基づく事項

2．FD分科会

日　　時：令和8年11月26日（木） 13：30～14：30

実施方法：オンライン開催（Zoom）

出 席 者：各加盟校のFD担当者等

議　　題：

令和8年度SPOD活動中間報告

令和9年度SPOD活動計画 等

※主にFD事業について、広く意見交換を行う

3．SD分科会

日　　時：令和8年11月26日（木） 15：00～16：00

実施方法：オンライン開催

出 席 者：各加盟校のSD担当者等

議　　題：

令和8年度SPOD活動中間報告

令和9年度SPOD活動計画 等

※主にSD事業について、広く意見交換を行う

SPOD階層別研修「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」の見直し状況について

1．はじめに

急速な人口減少や高等教育を取り巻く環境の変化により、大学職員に求められる能力や育成ニーズも大きく変化している。しかし、SPOD の階層別研修「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」は、個別プログラムの見直しは行われてきたものの、研修体系全体の枠組みについては 10 年以上見直しが行われていない。

そこで、職員のキャリア段階に応じた能力育成の基準となる「SPOD-SD 能力育成ルーブリック」を作成し、これを基に新たな研修体系およびレベル別研修プログラムを検討している。本資料では、令和 9 年度からの本格運用に向けた見直し状況について報告する。

2．「SPOD-SD 能力育成ルーブリック」の概要

SPOD コア校 4 大学の人材育成方針等を参考に、大学職員に求められる 6 つの能力領域を設定し、キャリア段階に応じてレベル 0 からレベル 5 までの行動・姿勢を整理した。本ルーブリックは、研修体系の設計や各研修の到達目標・内容の設定に活用する。

また、就職前の学生を対象とする「プレ SD」に対応したレベル 0 を新たに設定したことも特徴である。

3．令和 9 年度からの研修体系・プログラムの見直し

新体系の主な見直し方針は以下のとおりである。

(1)階層区分の明確化

従来は中途採用者を一律に「新任」として扱っていたが、就職時に適切なレベルを設定し、それに応じた研修を受けられるようにする。

(2)管理職層の再定義

課長・副課長級を対象とした従来の区分を見直し、副課長・課長補佐相当をレベル 4、部課長相当をレベル 5 として整理する。

(3)行動・姿勢に基づく研修設定

各レベルに求められる行動・姿勢に対応した研修プログラムを設定する。

(4) 研修プログラムの設計及び講師候補者の選定

SPOD-SDC 保有者および次世代リーダー養成ゼミナール修了生を対象としたワークショップを実施し、レベル別の研修プログラムを検討した。その成果も参考に、レベル別研修プログラム案を作成した。また、同修了生等を中心に講師候補者の選定を進めている。

(6)研修方法の多様化

一部プログラムについては、動画教材によるオンデマンド学習を導入する。

4．「レベル 0」の設定と学生向けプログラム「プレ SD」の試行実施

大学職員採用を取り巻く環境が厳しさを増す中、「採用後の育成」だけでなく、「育成から採用へ」という流れを形成することを目指している。そこで、就職前に身に付けておくべき能力を「レベル 0」として定義し、大学生・大学院生向けの「プレ SD」プログラムを企画した。

本プログラムは、大学職員の仕事への理解を促すとともに、将来大学で働くことへの関心や基礎的能力の向上を図ることを目的としている。

令和 7 年 12 月に愛媛大学、令和 8 年 4 月に香川大学で実施した。令和 8 年 11 月には愛媛大学において 3 回目の実施を予定している。

5．今後のスケジュール

令和 7 年度	・第4回 SD 専門部会で見直しの方針について意見交換 ・プレ SD を実施（愛媛大学） ・加盟校への情報共有、研修ニーズ等のヒアリング ・研修プログラム案等の修正 ・第6回 SD 専門部会で令和9年度からの階層別研修の見直しに向けた、令和7年度の取組および令和8年度の計画について説明
令和 8 年度	・プレ SD を他県へ展開（4月に香川大学で実施） ・4月に SPOD-SDC・次世代ゼミナール修了生を対象とした研修設計ワークショップを実施 ・5月の第2回 SD 専門部会で「SPOD-SD 能力育成ルーブリック」修正案が了承された。 ・6月の第3回 SD 専門部会でレベル別の研修プログラム案が了承された。 （以下、予定） ・第4回コア運営協議会で見直し状況を報告。 ・第 4 回 SD 専門部会で令和 9 年度レベル別研修の日程及び講師候補者について審議。 ・12月の第5回コア運営協議会で令和9年度の実施日程等を報告。
令和 9 年度	新研修体系の本格運用開始

参考資料

・SPOD-SD 能力育成ルーブリック

・令和9年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラムでの実施プログラムについて（案）

・令和9年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム実施要項（案）

SPOD-SD 能力育成ルーブリック

領域	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
業務遂行能力	これからの業務に必要となる社会人としてのスキルについてある程度身につけている。	大学の基本的な活動の理解のもと、指示された業務を遂行できる。	業務の目的や外部環境の変化を理解し、正確・丁寧に業務を遂行できる。	大学の使命や外部環境の変化を踏まえ、改善を行いながら業務を遂行できる。	全学のビジョンを意識し、業務全体を効率的・効果的に計画・管理できる。	組織の目標達成、持続的な発展のため、中長期的な展望を定め、各種資源を適切に配置し、実行責任を担う。
マネジメント能力	大学の役割や使命に関心を持ち、貢献しようとする姿勢がある。	自分の業務を適切に管理し、チームの一員として貢献できる。	業務やスケジュールなどの調整を行い、チームの円滑な運営に貢献できる。	チームメンバーの状況を把握し、リーダーシップをもってチームの目標達成に貢献できる。		
コミュニケーション能力	相手の意図を理解し、自分の意図を伝えることがこれからの業務に必要な水準で支障なくできる。	基本的な報連相や学生・学外者への適切な対応ができる。	多様な立場の人と円滑にやり取りでき、多人数の前で効果的に伝えることができる。	部署内外で意見を調整し、自らのチームの業務に資する連携を図ることができる。	外部環境や社会の変化を踏まえた広い視野でコミュニケーションを取り、調整・合意形成を進められる。	全学の方針を的確に理解し、学内外の多様なステークホルダーとの信頼関係のもと、協力関係の構築を主導する。
学習能力・指導能力	社会人として学ぶうえで必要な学び方の基礎的な知識と学びへの積極性をもっている。	自分の行動が周囲に与える影響を意識し、業務経験から学ぶ姿勢がある。	自らの専門性や経験を活かし、助言や支援ができる。	チームメンバーの成長を意識し、学びの機会を提供できる。	部署内の育成課題を把握し、チームとして人材を育成できる環境をつくることができる。	全学的な人事戦略を踏まえ、自部門の発展によって大学の教育・研究・社会貢献の質を高める。
企画・実行能力	他者と協力しながら何らかの企画を形にした経験をもつ。	高等教育を取り巻く基本的な知識を得て、自大学の活動を把握することができる。	高等教育を取り巻く環境や動向を把握し、自大学における課題を見つけることができる。	課題解決のために自らの部署の企画を具体化し、計画を立て、関係者と協力して推進できる。	外部環境や社会の変化を捉えた創造的な企画を立案し、部署を超えて実行を主導できる。	大学の中長期計画や改革方針に基づき、全学的な課題解決や新規事業の企画立案を主導し、成果を創出できる。
健康管理能力	心身の健康や働き方のバランスの重要性を理解している。	自身の身体的・精神的健康に注意を払いながら業務を遅滞なく進められる。	日常的に健康管理やストレス対処、時間管理を意識し、安定した働き方を実践できる。	チームメンバーの心身の健康状態や業務負荷に配慮し、ラインケアを実施できる。	部署の体制や業務設計において、過重労働や健康リスクを防ぐ仕組みづくりを進めることができる。	

各レベルの想定		
レベル0	就職前	新卒内定前の学生
レベル1	新卒での就職直後	社会人経験1～3年程度
レベル2	大学職員経験3年以上の部課員	社会人経験3年以上の部課員
レベル3	主任、係長相当	
レベル4	副課長、課長補佐相当	
レベル5	部課長相当	

令和9年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラムでの実施プログラムについて（案）

Lv.	対象	開催場所/日時		講義タイトル	時間	講師	メモ
0	就職前の学生 （新卒内定前）	愛媛大学 11月～12月の土曜日 ※開催希望あれば随時開催	1	大学職員の仕事を知る～大学職員論入門～	1h	愛媛大学職員（中堅）	
			2	未来の大学を考える～大学教育デザイン入門～	2.5h	愛媛大学教員	
			3	大学職員への第一歩～志望動機を考える～	1h	開催校職員（管理職）	教員志望の受講者がいる場合は、教員が大学教員向けの就職対策を説明
1	新卒での就職直後 社会人経験1～3年程度 ※新任職員は上記以外の職員も受講可能とする。また、全員対象のプログラムの受講を推奨する。	香川大学 5月11日（月）～14日（金）、 18日（火）～21日（金） のいずれか2日間	事前動画	社会人としてのマナー	0.5h		新任対象（中途・登用は希望者のみ） ※1日目のオリエンテーションで名刺交換を実践
			1	大学職員の心構え	2h	主に開催校が講師を選定する（2科目以上）。開催校及び周辺大学の教員やSPOD-SDC保有者、次世代リーダー養成ゼミナール修了生を中心に選定。	全員対象
			2	高等教育の基礎知識	2h		全員対象
			3	メンタルヘルス・セルフケアの基礎	2h		全員対象
			4	コミュニケーションの基礎	2h		新任対象（中途・登用は希望者のみ）
			5	タイムマネジメントの基礎	2h		新任対象（中途・登用は希望者のみ）
2	大学職員経験3年以上の部課員 社会人経験3年以上の部課員	愛媛大学 11月11日（木）～12日（金）	事前動画	高等教育政策論	1h		Moodle等での確認クイズ
			事前動画	セルフケアの基本	1h		ワークライフバランスの講義の事前課題
			1	コミュニケーション（説明力）	2h		
			2	チームワーク	2h	愛媛大学教員	リーダーシップとフォロワーシップ、チームへの貢献
			3	大学職員のための主体的業務改善	3h		
			4	ワークライフバランス	2h		
3	主任、係長相当の職員	愛媛大学 6月17日（木）～18日（金） または 11月18日（木）～19日（金）	事前動画	企画のためのプロジェクトマネジメント入門	1h		企画実践の事前課題
			1	チームのマネジメント	3h		実際の部下・後輩の育成計画
			2	企画実践	3h		
			3	主任・係長のための調整力向上講座	2h		
4	副課長、課長補佐相当の職員	愛媛大学 10月14日（木）～15日（金）	1	組織マネジメント	2h		自大学のビジョンを理解し、部署目標、人材育成、業務配分、人材配置を計画・提案する方法を扱う
			2	メンタリング実践	2h		
			3	ハラスメント防止	2h		
			4	組織改革力	3h		初日の研修を踏まえて、組織改革を実践していくために、改善や新規計画を立案し、提案する
5	部課長相当の職員	愛媛大学 7月下旬～9月上旬の間で2日間	1	大学の経営戦略	6h	講演：学外有識者 グループワーク進行：愛媛大学教員	講演（1H）、グループワーク（4H）、全体発表・質疑（1H）